

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誰もが楽しく幸せに6年間で過ごせる別府小学校
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～

2 中期的目標

1 組織運営、人材育成

(1) 同僚性を育み、主体的で意欲的な一体感のある、持続可能な教職員集団を構築する。

- ① 学校教育目標を常に意識し、「子どもが主役の学校づくり」を中心に据えた組織づくりを行う。
- ② 職員間の対話を重視し、個々の考えや価値観、思いを語り合える学年会やミーティングを設定し、共通認識を深める。
- ③ 教職員間で、デジタルやアナログのメリットを踏まえた効果的な情報共有を行う。
- ④ 授業参観や学校行事後のアンケート、学校教育自己診断等の結果を教職員で共有・分析し、改善策を検討して教育活動に反映する。

(2) 教職員の経験年数や一人ひとりの適性に応じた人材活用や校内組織を構築する。

- ① 教職員の意欲や適性を活かした4委員会(人権教育、学力向上、生徒指導、ICT)制を実施する。
- ② 校務分掌において、教職員に対しても「信じて、委ねて、任せる」姿勢を重視する。
- ③ SC・SSW等の専門家や市教委と連携し、情報共有やケース会議を適宜実施し、先を見据えた取り組みを行う。

(3) 教職員が働きやすい環境・教職員集団づくりを行う。

- ① カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、年間行事や校時の見直しを適宜行い、教職員の時間的・心理的ゆとりを生み出す。
- ② 休憩時間を明確にするとともに、会議以外でも教職員が対話する機会を意図的に設定し、相互理解を深める。
- ③ 校務の見える化を図り、業務の分担や進捗を共有しながら負担の偏りを軽減し、互いに支え合える体制を整える。

◆ 学校教育自己診断(教職員)「職員室は意心地の良い安心してできる雰囲気がある」の肯定的回答 R10:80%以上 (R7:58.7%)

◆ 学校教育自己診断(教職員)「あなたが仕事にやりがいを感じている」の肯定的回答 R10:85%以上 (R7:65.6%)

2 生きる力を育む教育活動

(1) 言語活動の充実を図り、主体的な対話を重視した授業づくりを推進する。

- ① 研究協議を伴う研究授業や校内研修を、計画的・定期的を実施する。
- ② 学習意欲や学力の向上をめざし、「主体的な対話」を取り入れた授業改善に取り組む。
- ③ 単元計画や目標を子どもと共有するとともに、「めあて・まとめ・振り返り」の質を高め、学びの見通しをもたせる。

(2) 学びをあきらめない子どもたちを育成するため、学力保障の観点から基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

- ① 「MIM」の活用やひらがなスクリーニングなどにより、つまずきの早期発見・早期支援を組織的に実施する。
- ② 児童・保護者に対し、自主学習や家庭学習の重要性の啓発を継続的に実施する。
- ③ 補充学習や学習支援の機会を計画的に確保し、学習の遅れを早期に改善する。

(3) 様々な出合いを重視した体験活動を取り入れ、非認知能力の向上を図る。

- ① 保護者や地域の方、企業等と連携したキャリア教育を充実させ、社会と学びのつながりを意識させ学習意欲の向上を図る。
- ② 人権課題など当事者等本物から学ぶ機会を設定し、人権意識や人権感覚を醸成する。
- ③ 「生きる教育」を推進し、自己肯定感を育み、自分も相手も大切にできる力や言語力の向上を図る。
- ④ 発達支持的生徒指導の視点を教育活動全体に位置づけ、子どもの育ちを支えるとともに、「子どもが主役の学校づくり」を推進する。

◆ 学校教育自己診断(児童)「学校の授業がよくわかる」の強肯定的回答 R10:55%以上 (R7:39.6% 肯定的回答 84%)

◆ 学校教育自己診断(教職員)「子どもたちが「学校づくり」に自ら参画し、主体的に活動が行えている。」の強肯定的回答 R10:40%以上 (R7:17.3% 肯定的回答 86.3%)

◆ 市学力定着度調査において同一集団の学力を継続的に向上させる。

3 地域連携と渉外

(1) PTA や学校運営協議会を活用して保護者・地域へ情報発信し、連携した取り組みを行い、「地域とともにある学校づくり」を推進する。

- ① 学校運営協議会を核に学校の課題を共有し、PTA や地域、自治会等と連携して、参画・協働できる体制づくりを進める。
- ② PTA 行事や地域行事等に子どもたちがより多く参加できるよう、教職員も関わりながら情報発信を工夫し、つながりを深める。
- ③ 学校の課題を地域とともに考え、地域の課題を学校教育活動と関連付けるなどして、子どもが地域に支えられて育っている実感をもてるようにする。
- ④ 授業参観や学校行事等の保護者アンケートや、学校教育自己診断等の結果を発信・共有することで、学校教育への理解と参画意識を高める。

(2) 児童の連続した成長・学びを実現できるよう、中学校区の「保幼小中連携」に取り組む。

- ① 各校の研究発表会等に四中校区として相互に参加し、めざす子ども像やつきたい力を共有して、系統的・継続的に育成する。
- ② 小中学校が連携し、学校行事等への相互参加を促すことで、先輩に憧れる気持ちや下級生を思いやる態度を育成する。
- ③ 保育所・幼稚園と小学校がつながる教育活動の場面を増やし、子どもの安心と期待を高め、円滑な接続を図る。

◆ 学校教育自己診断(教職員)「学校は地域や外部人材などと連携・協力し、子どもたちを育てることができている。」の強肯定的回答 R10:30%以上 (R7:10.4.3% 肯定的回答 51.8%)

◆ 学校教育自己診断(保護者)「学校は、保護者・地域に対して情報を発信し、「地域とともにある学校づくり」に向けて取り組んでいる」の強肯定的回答 R10:40%以上 (R7:26.2% 肯定的回答 85.9%)

3 今年度の重点目標と具体的な教育活動

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な教育活動	評価指標	自己評価
1 組織運営、人材育成	<p>(1) 同僚性を育み、主体的で意欲的な一体感のある、持続可能な教職員集団を構築する。</p> <p>(2) 教職員の経験年数や一人ひとりの適性に応じた人材活用や校内組織を構築する。</p> <p>(3) 教職員が働きやすい環境・教職員集団づくりを行う。</p>	<p>①学校教育目標を常に意識し、教職員・児童に共有しながら、「子どもが主役の学校づくり」を推進する。</p> <p>②職員間の対話を重視し、個々の考えや価値観、思いを語り合える学年会やミーティングを設定し、共通認識を深める。</p> <p>①教職員の意欲や適性を踏まえ、校務分掌等で役割を担わせるとともに、「信じて、委ねて、任せる」姿勢を重視する。</p> <p>①カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、年間行事や校時の見直しを適宜行い、教職員の時間的・心理的ゆとりを生み出す。</p>	<p>◆学校教育自己診断(教職員)「職員室は居心地の良い安心できる雰囲気がある」の肯定的回答 65%以上 (R7:58.7%)</p> <p>◆学校教育自己診断(教職員)「あなたが仕事にやりがいを感じている」の肯定的回答 70%以上 (R7:65.6%)</p>	
2 生きる力を育む教育活動	<p>(1) 言語活動の充実を図り、主体的な対話を重視した授業づくりを推進する。</p> <p>(2) 学びをあきらめない子どもたちを育成するため、学力保障の観点から基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p>(3) 様々な出会いを重視した体験活動を取り入れ、非認知能力の向上を図る。</p>	<p>①「主体的な対話」を研究テーマに研究協議を伴う研究授業や校内研修を、計画的・定期的実施する。</p> <p>①「MIM」等を活用し、つまずきの早期発見・早期支援を組織的に実施する。</p> <p>②補充学習や学習支援の機会を計画的に確保し、学習の遅れを早期に改善する。</p> <p>①保護者や地域の方、企業等と連携したキャリア教育を充実させ、社会と学びのつながりを意識させ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>②「生きる教育」を推進し、自己肯定感を育み、自分も相手も大切に教育活動を展開する。</p> <p>③発達支持的生徒指導の視点を教育活動全体に位置づけ、子どもの育ちを支えとともに、「子どもが主役の学校づくり」を推進する。</p> <p>④異学年交流や学年縦割りの教育活動やレクリエーションなどに取り組み、先輩に憧れる気持ちや下級生を思いやる態度を育成する</p>	<p>◆学校教育自己診断(児童)「学校の授業がよくわかる」の強肯定的回答 45%以上 (R7:39.6% 肯定的回答 84%)</p> <p>◆市学力定着度調査における同一集団の学力(全国比)を前年度よりも半数以上(学年・教科)向上させる。</p> <p>◆学校教育自己診断(教職員)「子どもたちが「学校づくり」に自ら参画し、主体的に活動が行えている。」の強肯定的回答 25%以上 (R7:17.3% 肯定的回答 86.3%)</p> <p>◆学校教育自己診断(児童)「学校が楽しい」の強肯定的回答 55%以上 (R7:46.1% 肯定的回答 84.7%)</p>	
3 地域連携と渉外	<p>(1) PTA や学校運営協議会を活用して保護者・地域へ情報発信し、連携した取り組みを行い、「地域とともにある学校づくり」を推進する。</p> <p>(2) 児童の連続した成長・学びを実現できるように、中学校区の「保幼小中連携」に取り組む。</p>	<p>①学校運営協議会を核に学校の課題を共有し、PTA や地域、自治会等と連携して、参画・協働できる体制づくりを進める。</p> <p>②PTA 行事や地域行事等に子どもたちがより多く参加できるよう、教職員も関わりながら情報発信を工夫し、つながりを深める。</p> <p>①小中学校が連携し、学校行事等への相互参加を促すことで、先輩に憧れる気持ちや下級生を思いやる態度を育成する。</p> <p>②保育所・幼稚園と小学校がつながる教育活動の場面を増やし、子どもの安心と期待を高め、円滑な接続を図る。</p>	<p>◆学校教育自己診断(教職員)「学校は地域や外部人材などと連携・協力し、子どもたちを育てることができている。」の強肯定的回答 20%以上 (R7:10.4% 肯定的回答 51.8%)</p> <p>◆学校教育自己診断(保護者)「学校は、保護者・地域に対して情報を発信し、「地域とともにある学校づくり」に向けて取り組んでいる」の強肯定的回答 32%以上 (R7:26.2% 肯定的回答 85.9%)</p>	